

「平成 19 年度多摩市行政評価報告書」への意見書

多摩市自治推進委員会では、平成 20 年 12 月 9 日、17 日、平成 21 年 2 月 5 日、3 月 4 日の計 4 回にわたり委員会にて、平成 19 年度多摩市行政評価報告書について意見を述べ、とりまとめた。

以下、「平成 19 年度多摩市行政評価報告書」に対する意見書として提出する。

平成 21 年 3 月 17 日  
多摩市自治推進委員会

## 1. 事業の進捗状況について

- \* 進行状況が6割が順調にしているが、順調でないものについての原因と具体的な施策を記述した方がよい。取り上げにくい指標をどう客観的なものに変えていくか、市の力では及ばないところは見直しや改善が必要である。
- \* 行政評価は細かく評価分析してある。しかし、市民が見た場合一目瞭然と行かないところが難点である。また、指標もわかりやすく、進行状況や進行していない場合の改善策を具体的に示す方向での改善をすべきである。
- \* 報告書に事業カルテの診断書の様式の紹介があり、様式の真ん中に市民協働を評価する欄がある。これは各事務事業にたいして評価するものだが、これを行政評価報告書に入れると良い。大きな政策や施策ではなく、個別の事務事業に対して行政側として市民協働についての意思を表したほうが良い。市民側の方でも、これは協働できる事業であるという意見が出る場合があると思う。市民とのコミュニケーションを図る意味でも改善が必要である。
- \* 市民協働の指標があり、かなり協働を達成したことになっているが、現状と遊離 乖離している部分がある。その理由のひとつとして成果指標がNPO団体の数になっているものがある。NPO法人数と市の努力との相関はあまりないと思われる。
- \* 協働の数が増えることは好ましいことだが、目標値の設定の仕方に問題がある。目標値ではなく、期待値にするなど工夫が必要。数値を決められると市民協働を進める立場からは困る感がある。協働指定委託事業を54事業にするとか、後援を220事業にするとかは、もっと協働の数を増やしたいと思う市民からは望ましくない。設定の上限はあると思うが低いところで決めないほうが良い。
- \* 全体の指標の6割以上が順調に進行しているとなっているが、全体の8割が多摩市政世論調査（以下、世論調査）の結果なので不安定である。世論調査の結果を良くしたいというのでは本末転倒でサービスの向上をはかるように行政評価を使用した方がよい。内容としては、高齢者、障がい者、人権問題がやや下降ぎみで将来の不安を残している。報告書に書いてある方向だけでいいかどうか、その部分も合わせて検討が必要と考える。
- \* 生活の中での実感についての分析で、市政世論調査の問いである「身の回りに差別や人権侵害があると思いますか」を採用しているが、「思いますか」は、あやふやな聞き方で主観的な回答になる。「見ましたか」とするほうが望ましい。

## 2. 行政評価のありかたについて

### ア 評価のわかりやすさ

- \* 年度ごとの指標を提示したほうがわかりやすい。向かっているという表現ではわからない。上昇傾向、横ばいなどの表現もわかりにくい。「順調に進行している」とか、「達成が難しい」としたほうがわかりやすい。また、定量的に何%としたほうが良い。
- \* 成果指標の考察や重点目標を取り巻く現状分析は一覧表などでまとめられているとわかりやすい。
- \* 報告書を読んでも何に力点を置いたのか、どういうところがうまくいって、どういうところを改善しなければならないのか読み取りにくい。簡単明快な表現にすべきである。

## イ 指標の設定について

- \* 世論調査は市民の満足度を知るためには良い指標だが、時々状況によって数値が変化するときもある。より客観的な指標を考えると世論調査の満足度だけでは不十分である。例えば、保育を希望して入れる入所者の割合や待機児童の割合などが適当である。
- \* 19年度の実績から目標の達成が難しい指標があるが期中での見直しを行っているのか。不満を持っている市民の数を減らす」というのは指標として再考の余地がある。
- \* 一回決めた指標は18年度から5年間続けていくとされているが、意味ある指標ではない。一例として「多摩市に移ってきた理由が、子育て環境が整っているから」という市民の割合」という指標を世論調査から持ってきているが、目標値が15%で19年度は6.4%になっている。世論調査は子育て世代だけから調査しているわけではないので、こういう指標は意味がない。

## ウ 市民への周知について

### ①報告書

- \* 市民向けということを考えても行政評価報告書は110数部しか刷っていないのは少なすぎる。再考を要する。
- \* 分りにくい言葉や説明が多く、改善を希望する。抽象的な表現が多く、市民の言葉で表現した方がよい。また、数値や図表を使って一目瞭然とした方がよい。特に予算は何処にどれだけ使われたかについては概算（何十万円）を示すと良い。指標の丁寧な説明や目標達成のための処方箋を加えてみることを提案する。

### ②概要書

- \* 行政評価報告書の概要の2ページに多摩市の戦略プランの個別目標がアからネまで記載されているが、例えばアは何億円かかってABCというように評価すると分かりやすい。金額が明示されていないのでわかりにくい。
- \* 成果指標一覧とアからネの事業規模がわかるものが一つになった表を1枚入れるとわかりやすい。

### ③その他

- \* 新聞に折り込んで配布するたま広報などでの周知には限度がある。携帯電話などを活用した（安心安全まちづくり情報と同じように）情報伝達媒体を工夫する必要がある。

## 3. 今後の改善点

- \* 行政評価のあり方については外部評価の導入を含めて見直しをしたほうが良い。自治推進委員会として提案をしたい。
- \* テーマを少数に絞って市民の意見を聞く方法を工夫する必要がある。
- \* 評価対象として毎年1%、2%しか変わらないものは、隔年にして事務作業を省略したほうが望ましい。
- \* 行政評価についての説明会を行ったほうが良いのでは。わかりやすい絵や図やパワーポイントがあれば関心がある人は集まると思う。市民に対する分かりやすい説明の機会が必要と考える。